

第1回インフォメーションミーティング

2018年3月期決算の状況と 第1次中期経営計画について

2018年6月12日



目次

I 株式会社三十三フィナンシャルグループの設立について

	ページ
グループの経営理念	… 1
グループの概要	… 2

II 2018年3月期決算の状況について

	ページ
2018年3月決算サマリー	… 4
コア業務純益(要因分析)前期比較	… 5
資金利益	… 6
貸出金残高(地域別)	… 7
預金等残高(地域別)	… 8
有価証券残高	… 9
有価証券評価損益	… 10
非金利収益	… 11
ソリューション手数料	… 12
経費	… 13
信用コスト・金融再生法開示債権	… 14
自己資本比率(連結ベース)	… 15
業績予想・配当政策	… 16

III 第1次中期経営計画について

	ページ
持続的発展に向けたビジネスモデル	… 18
中期経営計画の概要	… 19
中期経営計画の基本方針および基本戦略	… 20
基本戦略～リレーションの構築～	… 21
基本戦略～ソリューションの提供～	… 22
基本戦略～効率化と最適化 /強固な経営基盤の構築	… 23
地域経済活性化への取り組み	… 24
グループ計数計画	… 25
シナジー効果について	… 26

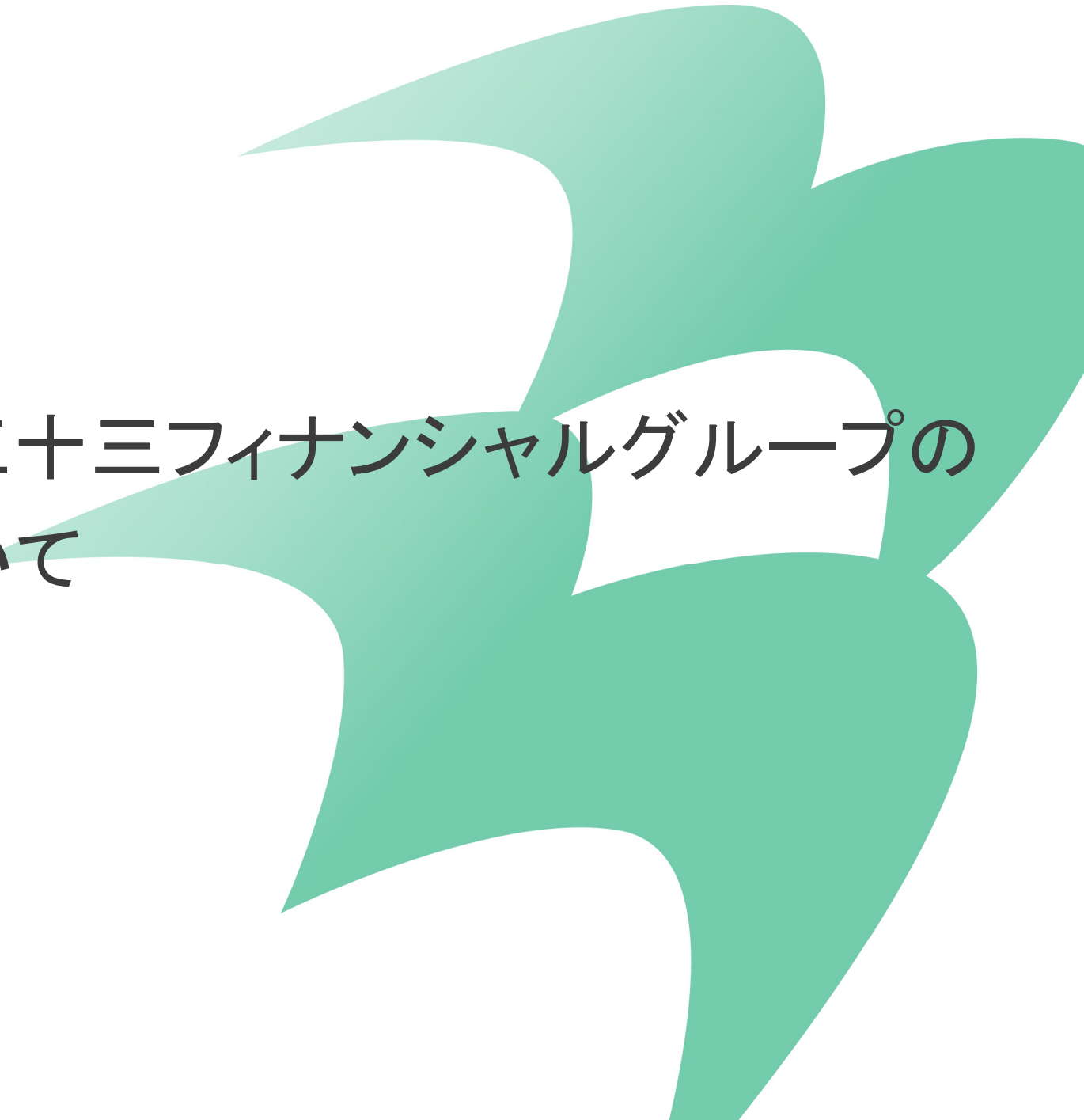
本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。これらの記述はリスクと不確実性を内包しており、将来の業績を保証するものではありません。将来の業績は経営環境に関する前提条件変化等に伴い目標対比変化することにご留意下さい。本資料は、当社に関する理解を深めていただくための資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。

【本件に関するご照会先】

三十三フィナンシャルグループ 経営企画部 松田

TEL 059-354-7172 FAX 059-355-8225

E-mail koho@miebank.co.jp



I 株式会社三十三フィナンシャルグループの 設立について

社名

株式会社三十三フィナンシャルグループ
San ju San Financial Group, Inc.

経営理念

地域のお客さまから愛され信頼される金融グループとして、
地域とともに成長し、活力あふれる未来の創造に貢献します。

シンボルマーク



【コンセプト】

「33」をモチーフにした2羽の鳥のシンボルマーク。

この2羽の鳥は三重銀行と第三銀行を表すとともに、
地域のみなさまと三十三フィナンシャルグループを表現
するものです。

ともに大空へ羽ばたく姿は、地域と三十三フィナンシャル
グループの成長と活力あふれる未来を描いています。

グループの概要

概 要

本店所在地
(登記上の住所)

三重県松阪市京町510番地

本社所在地
(本社機能)

三重県四日市市西新地7番8号

代表者

代表取締役会長 岩間 弘
(第三銀行 取締役頭取)

代表取締役社長 渡辺 三憲
(三重銀行 取締役頭取)

資本金

100億円

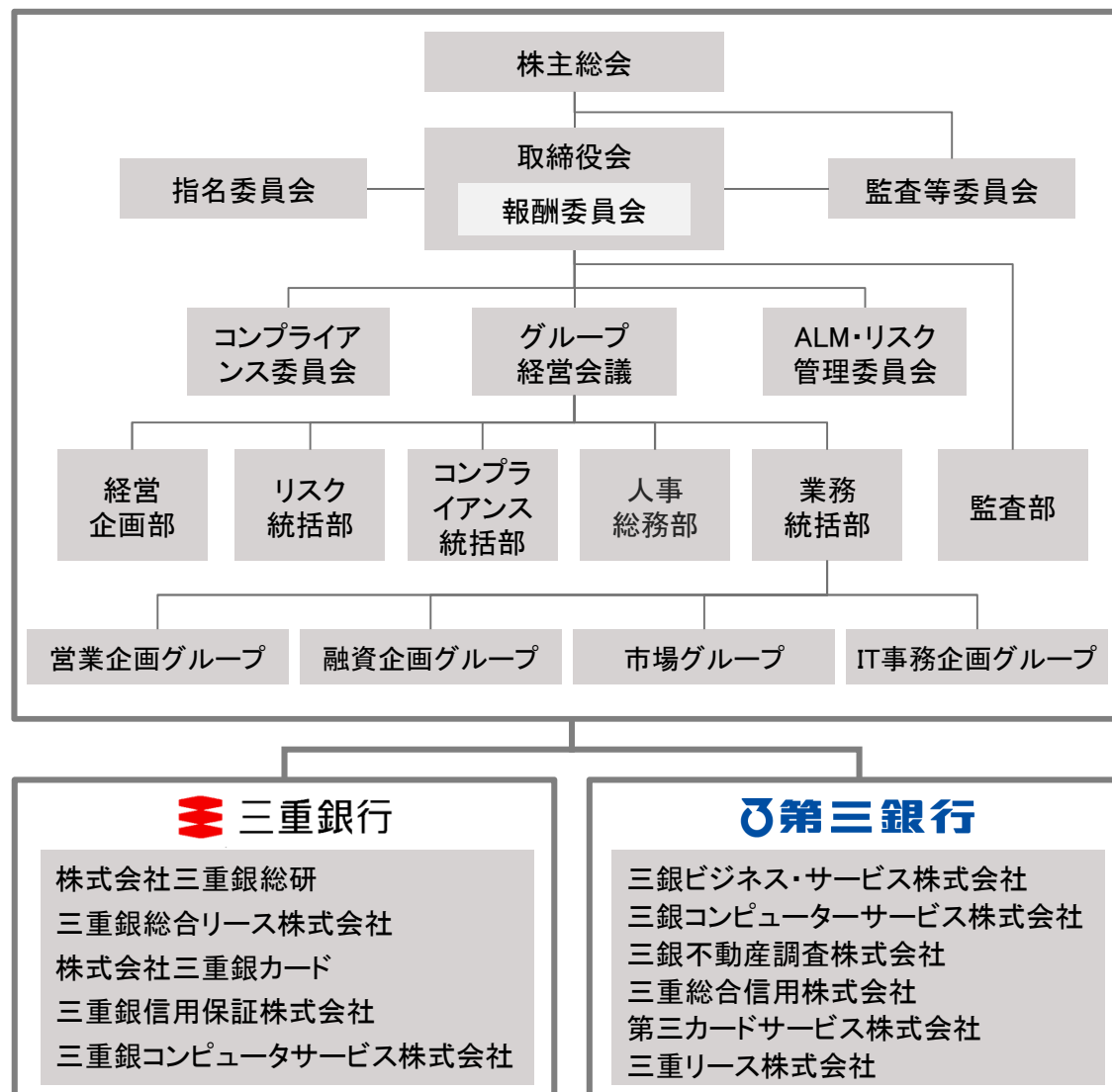
設立日

2018年4月2日

上場証券
取引所

東京証券取引所
名古屋証券取引所

経営管理態勢



Ⅱ 2018年3月期決算の状況について



2018年3月決算サマリー

■ 三重銀行と第三銀行の2行単体の単純合算（以下「2行合算」）

	(億円)					
	2018/3期 2行合算	前期比	三重	前期比	第三	前期比
コア業務粗利益	480	+7	224	+10	255	▲ 2
資金利益	387	+7	166	+4	221	+2
うち預貸金利息収支	286	▲ 2	132	▲ 0	153	▲ 2
うち有価証券利息配当金	105	+6	37	+1	67	+4
非金利収益	92	+0	58	+5	34	▲ 5
経費 (▲)	384	▲ 1	179	▲ 1	205	▲ 0
コア業務純益	95	+9	45	+11	50	▲ 1
有価証券関係損益	18	▲ 2	1	▲ 3	16	+0
国債等債券損益	▲ 1	▲ 6	▲ 2	▲ 5	0	▲ 0
株式等関係損益	20	+3	3	+1	16	+1
与信費用 (▲)	16	+2	1	+2	15	+0
経常利益	101	+4	47	+3	54	+0
当期純利益	78	+14	35	+2	43	+11

2018年3月期 増益決算 (2行合算)

コア業務粗利益 **7億円増**
(トップライン)

コア業務純益 **9億円増**

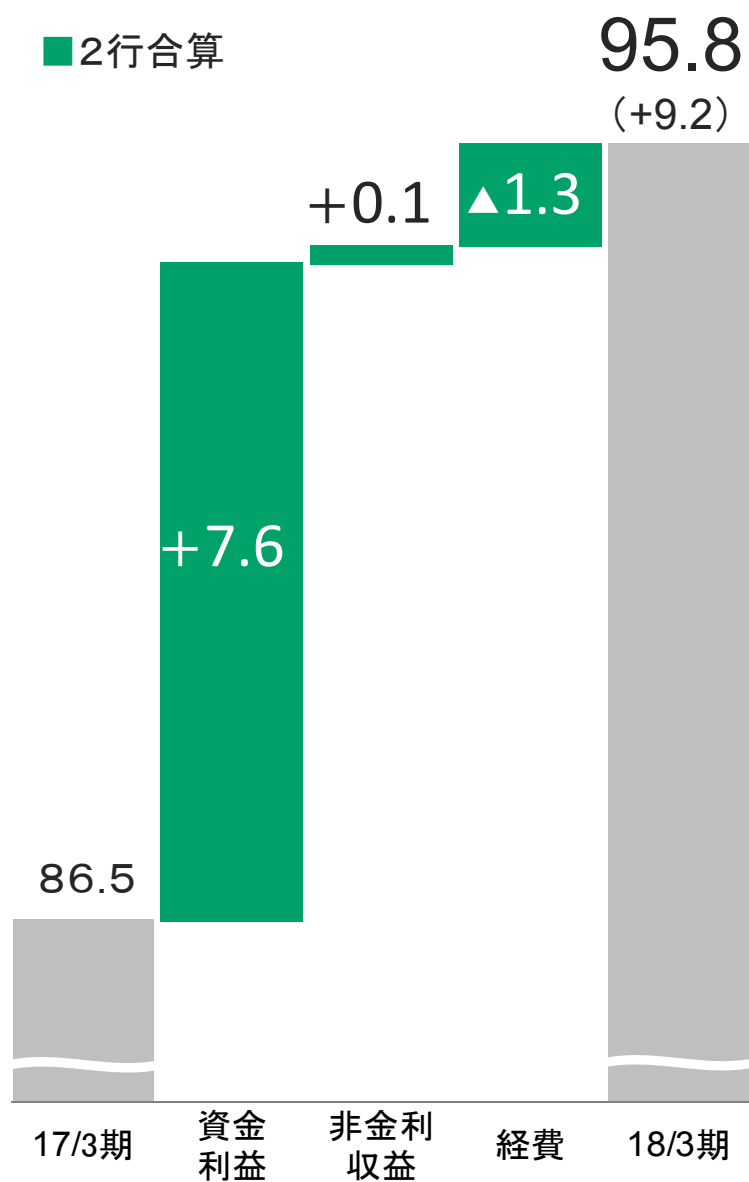
経常利益 **4億円増**

当期純利益 **14億円増**

コア業務純益(要因分析)前期比較

(億円)

■ 2行合算



コア業務純益 **9.2億円増**

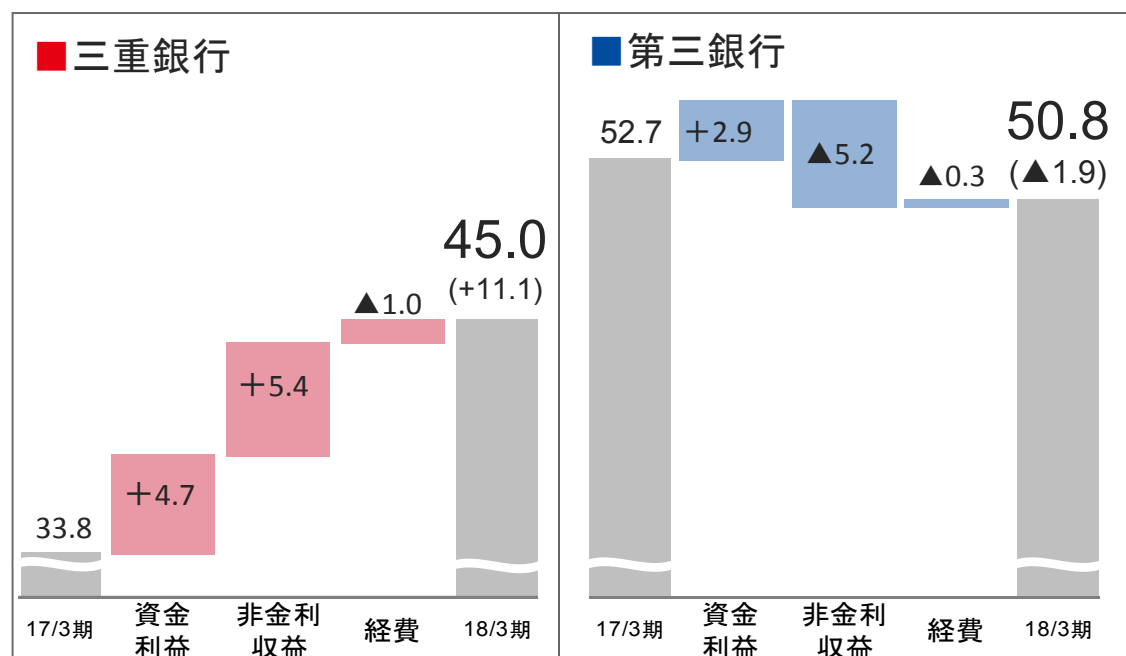
資金利益 **7.6億円増**

非金利収益 **0.1億円増**

経費 **1.3億円減**

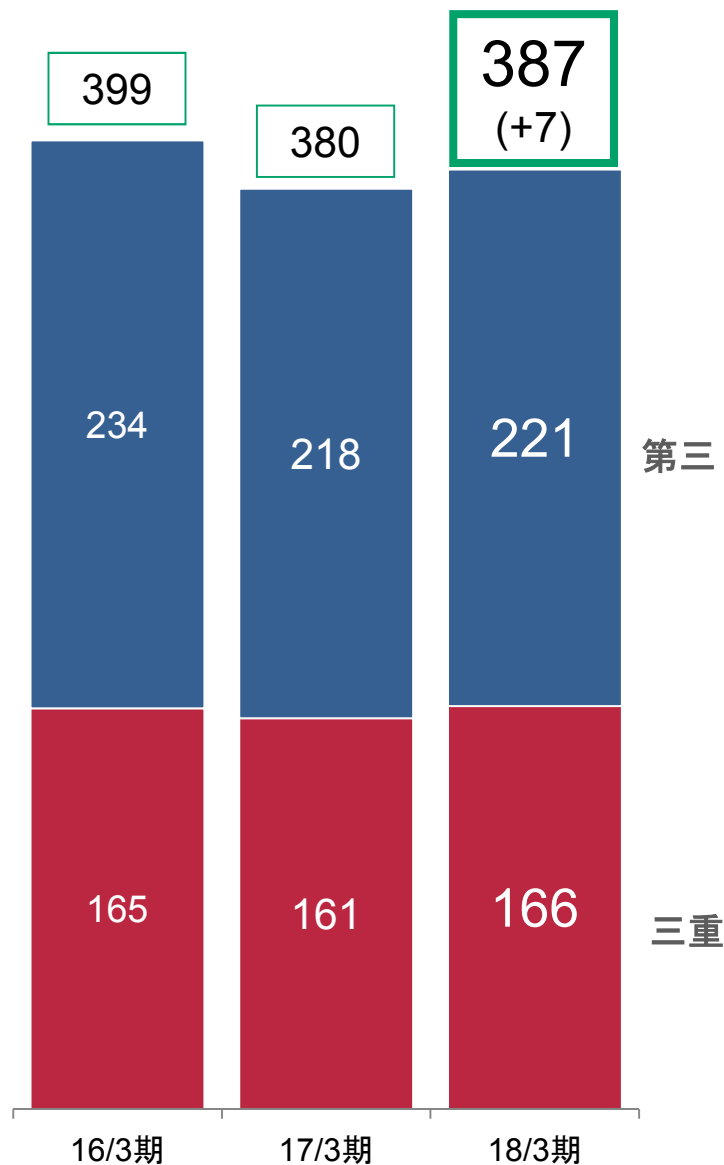
(2行合算)

(億円)

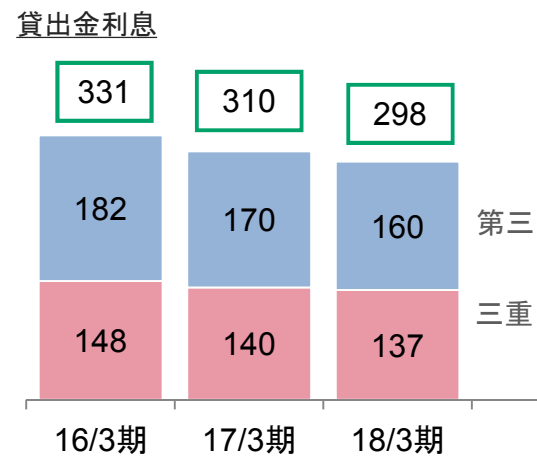
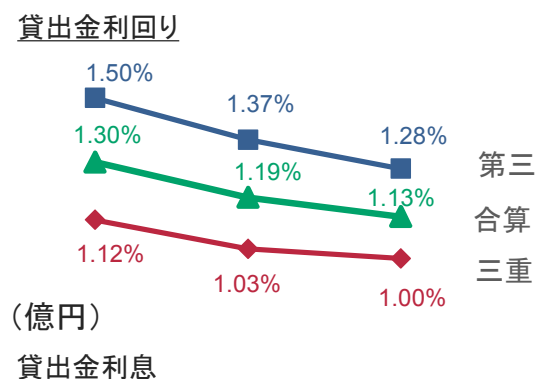


資金利益

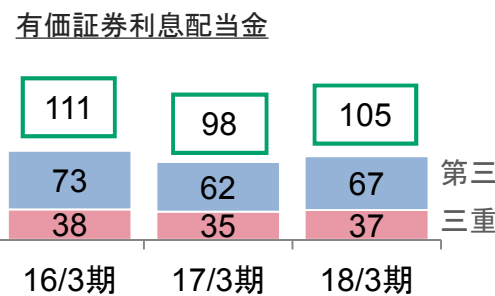
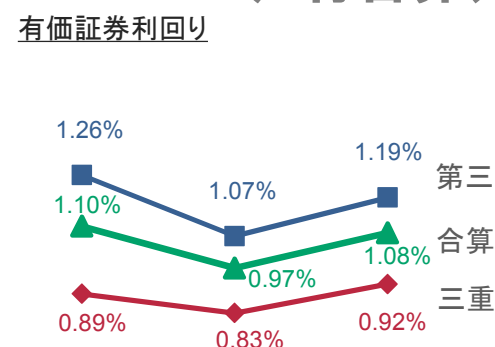
(億円)



資金利益 貸出金利回り低下幅



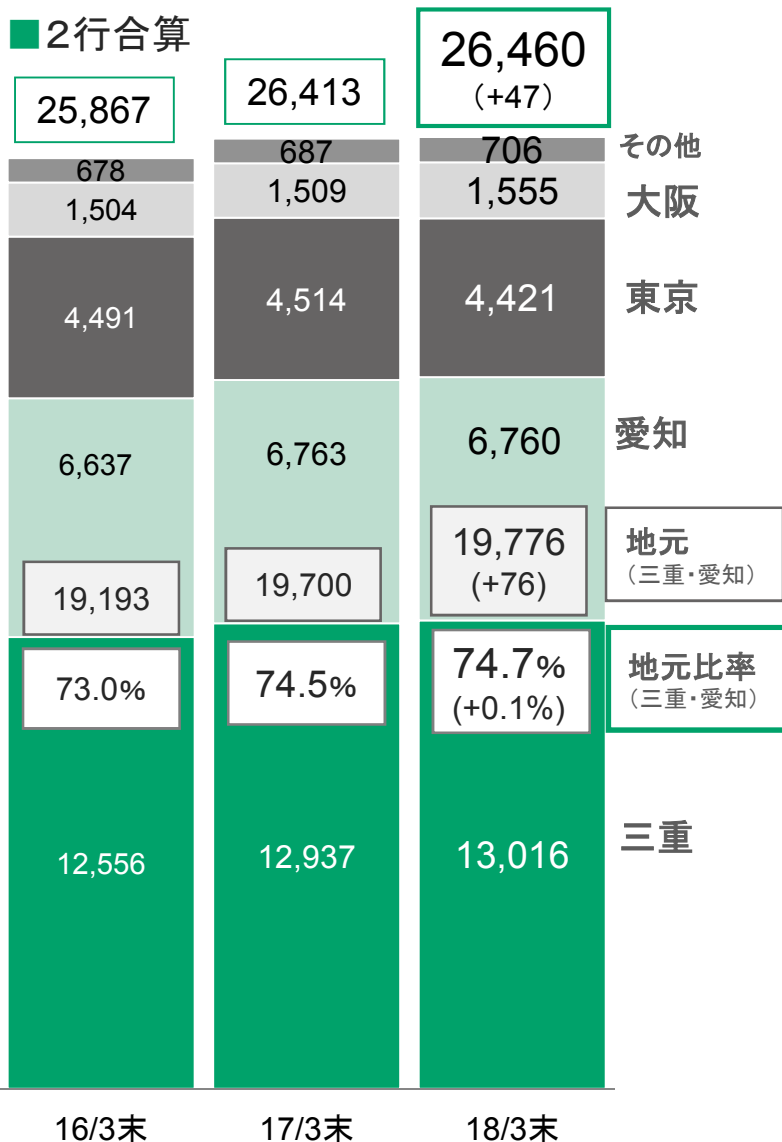
7億円増 縮小傾向 (2行合算)



貸出金残高(地域別)

(億円)

■ 2行合算



地元三重・愛知

地元貸出比率

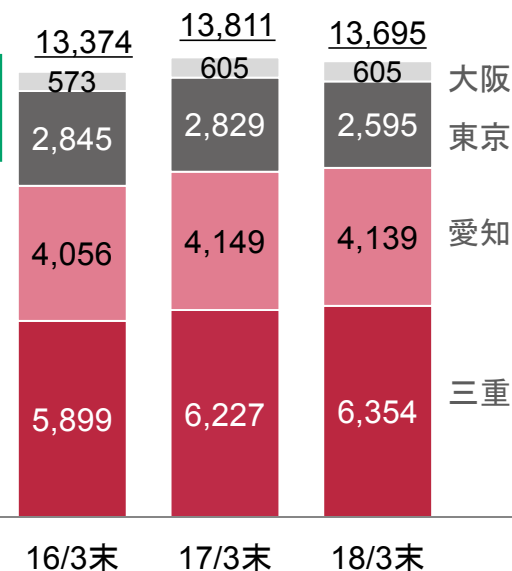
76億円増

74.7%

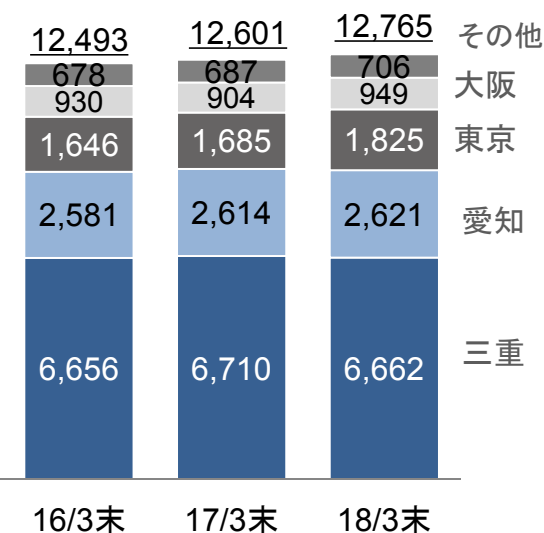
(2行合算)

(億円)

■ 三重銀行



■ 第三銀行

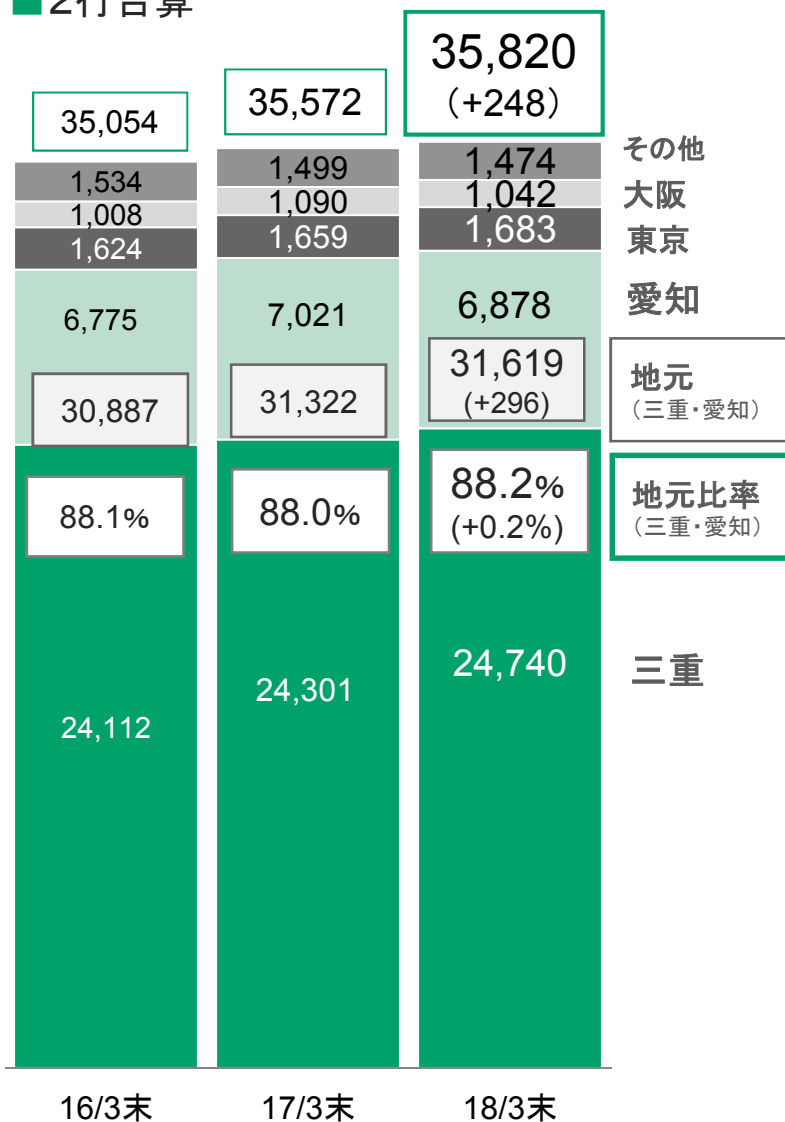


その他は、岐阜県、奈良県、和歌山県を指しています。

預金等残高(地域別)

(億円)

■ 2行合算



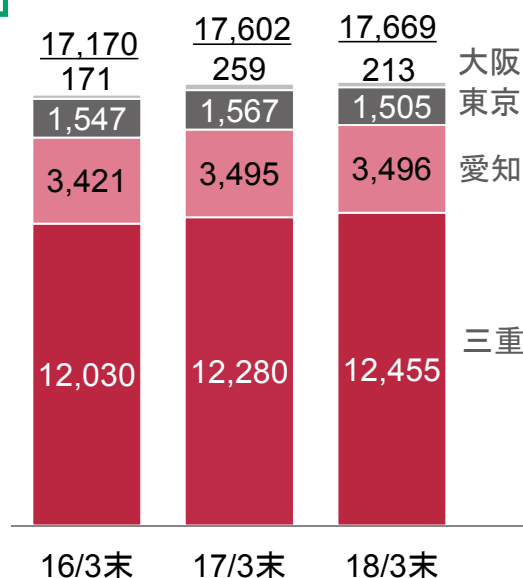
その他は、岐阜県、奈良県、和歌山県を指しています。

地元三重・愛知 **296億円増**

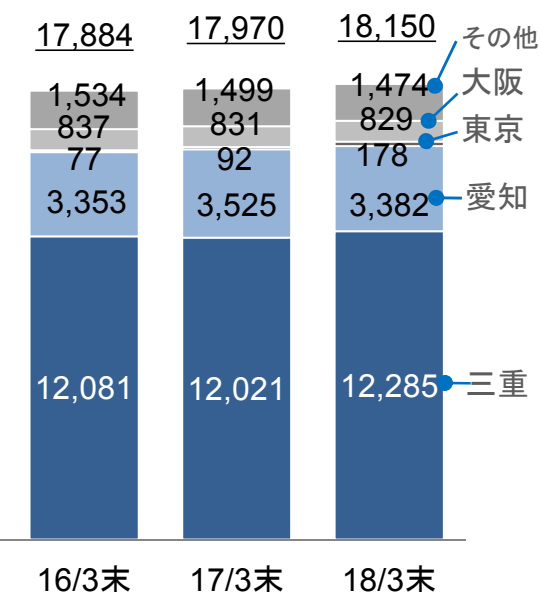
地元預金比率 **88.2%**
(2行合算)

(億円)

■ 三重銀行



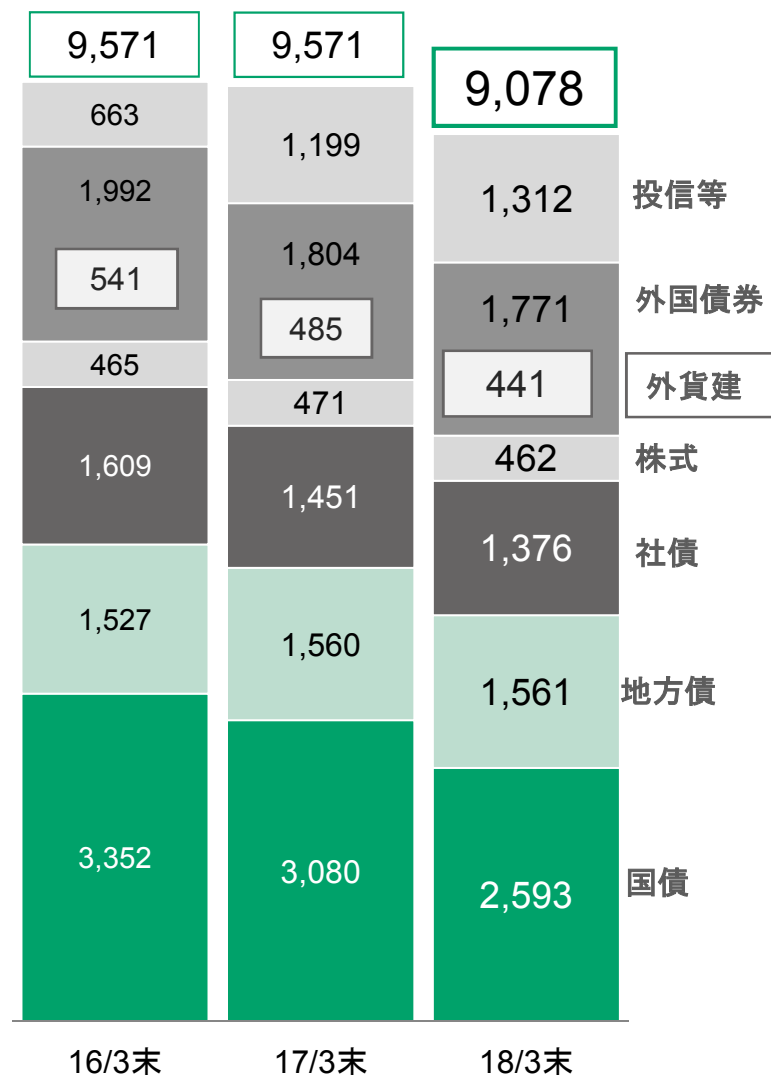
■ 第三銀行



有価証券残高

(億円) 時価評価前簿価(私募債を除く)

■ 2行合算

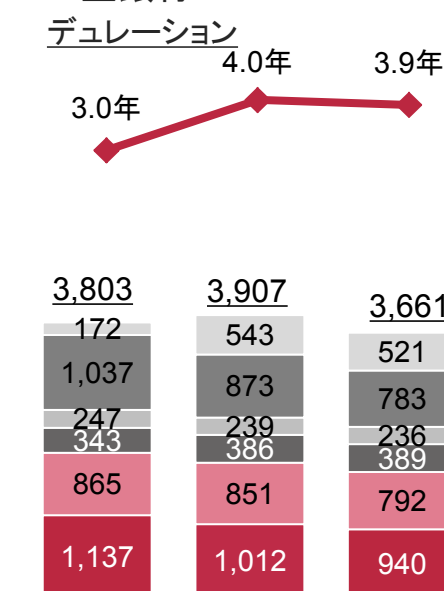


国債
投信等

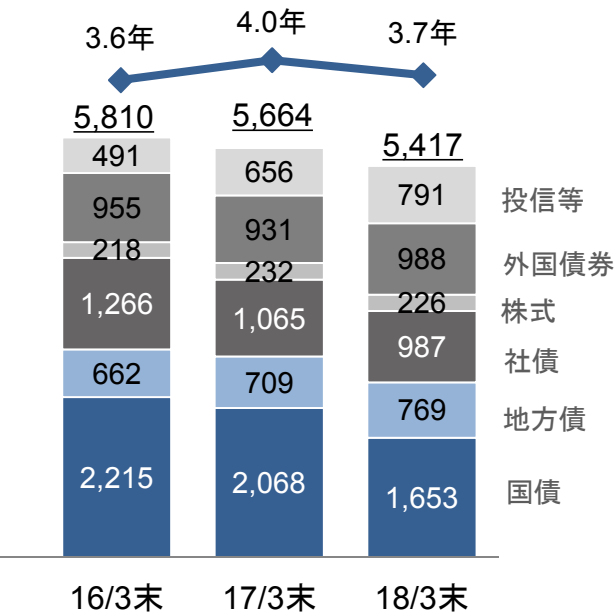
再投資抑制
ウェイト増
(2行合算)

(億円)

■ 三重銀行
デュレーション

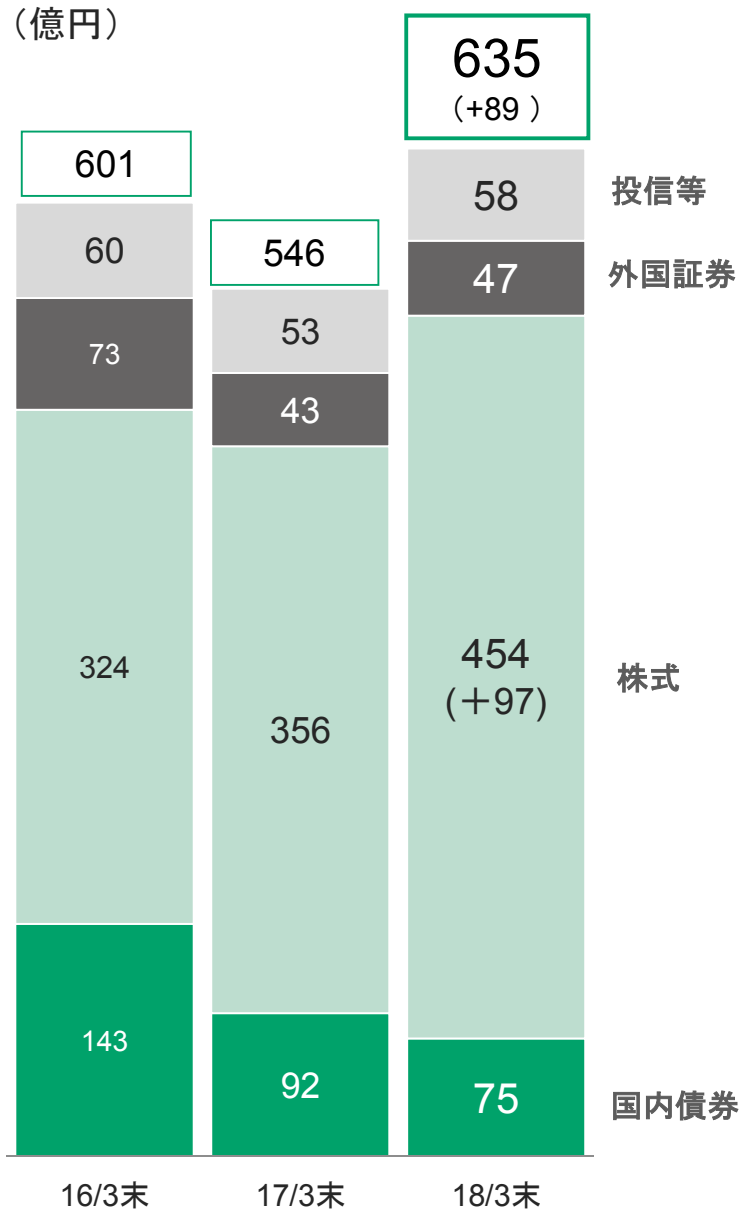


■ 第三銀行



有価証券評価損益

(億円)



評価損益

89億円増

株式

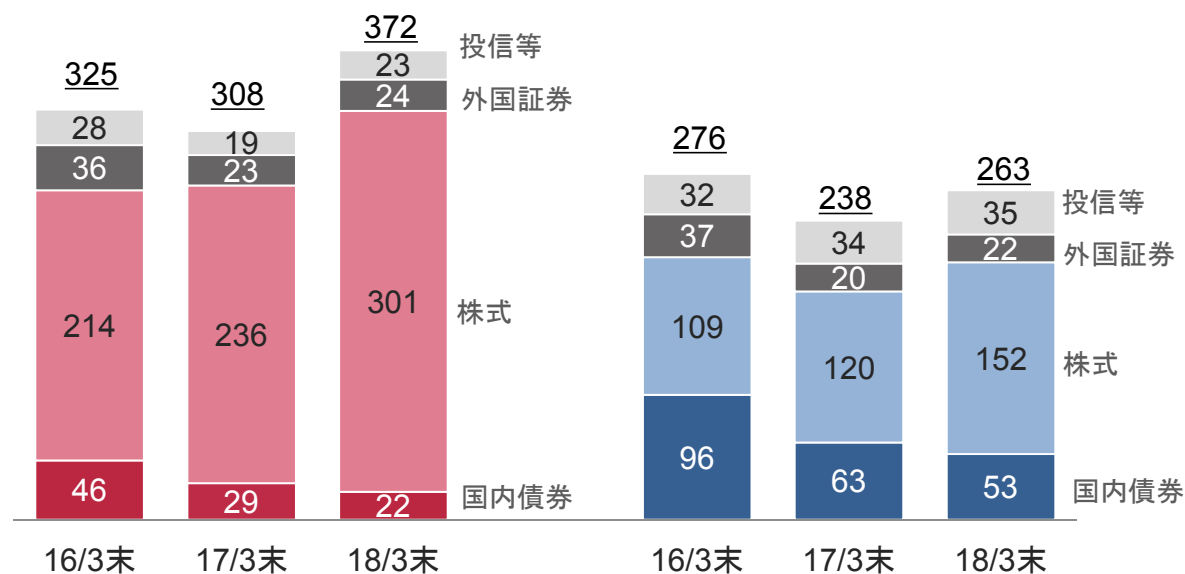
97億円増

(2行合算)

(億円)

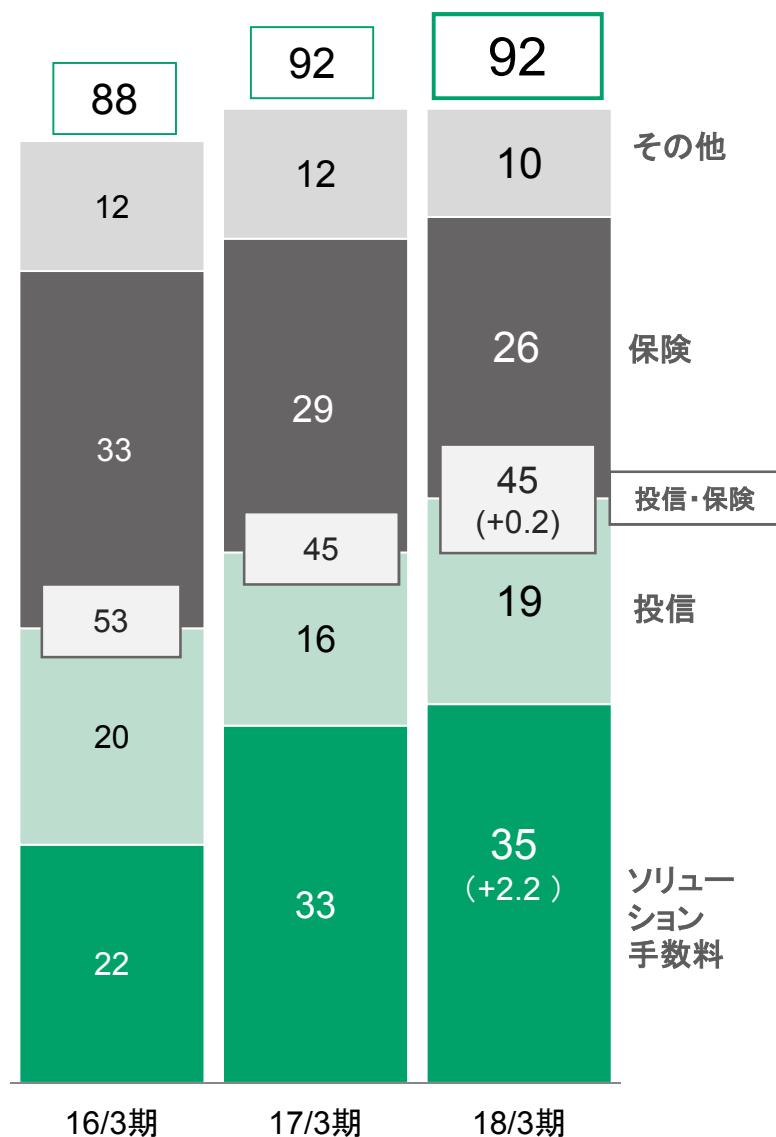
■ 三重銀行

■ 第三銀行



非金利収益

(億円)



ソリューション
手数料

2.2億円増

投信・保険

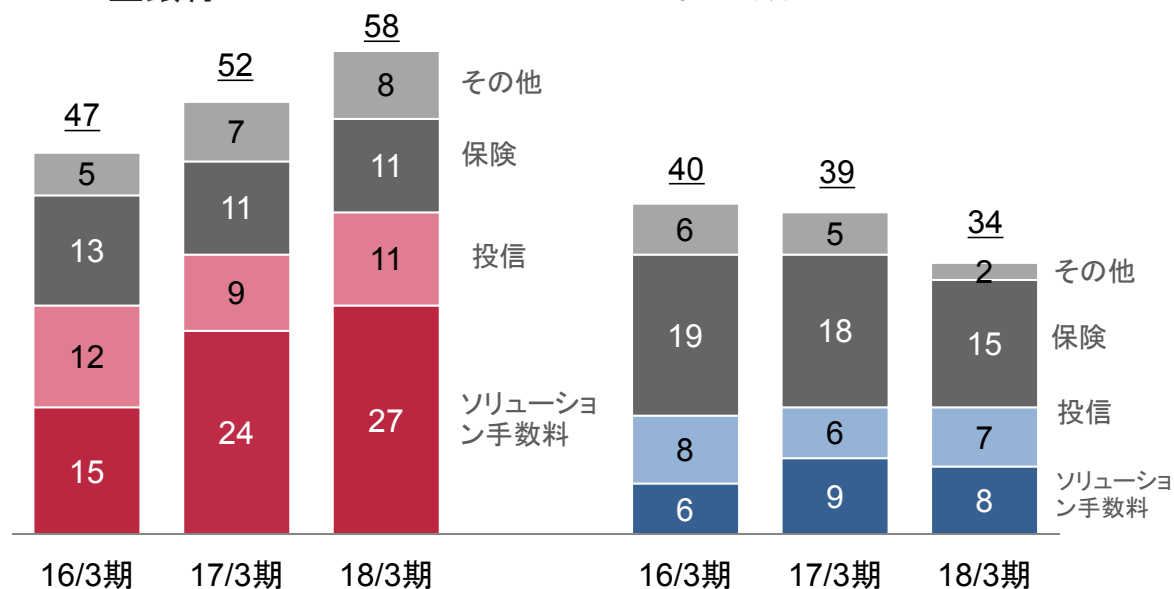
0.2億円増

(2行合算)

(億円)

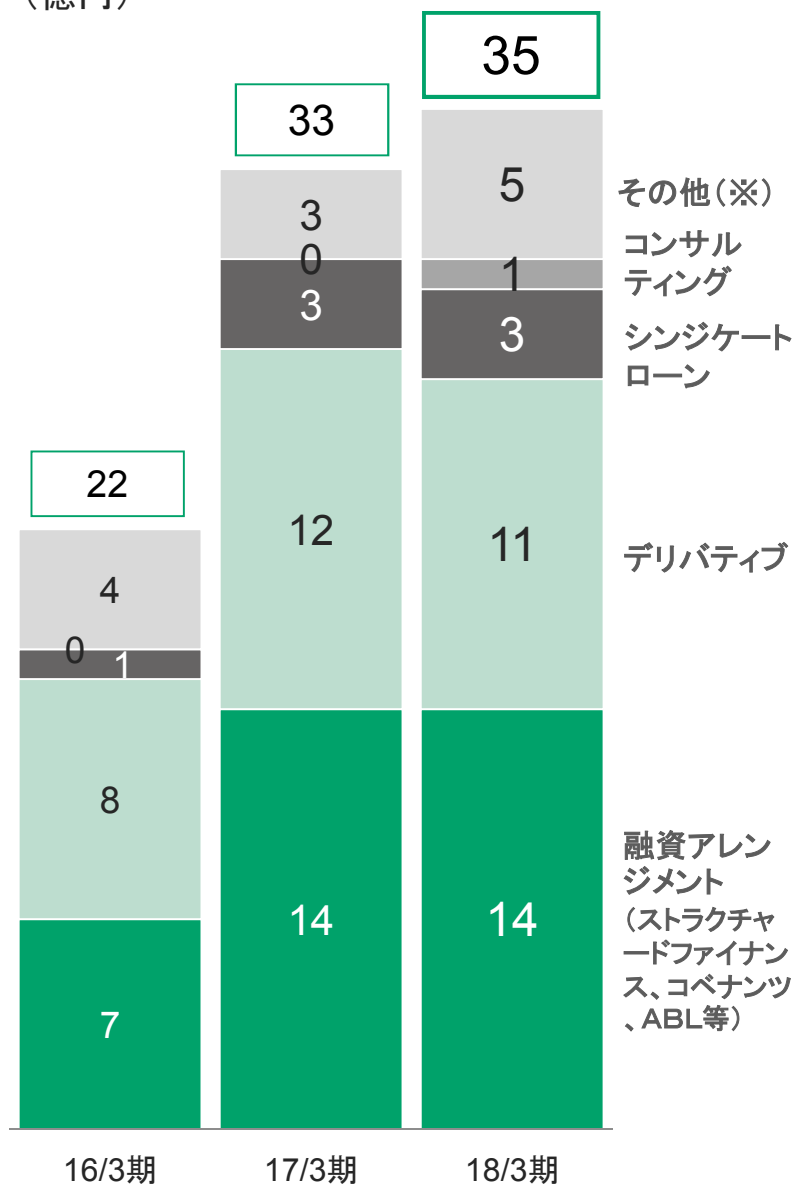
■ 三重銀行

■ 第三銀行



ソリューション手数料

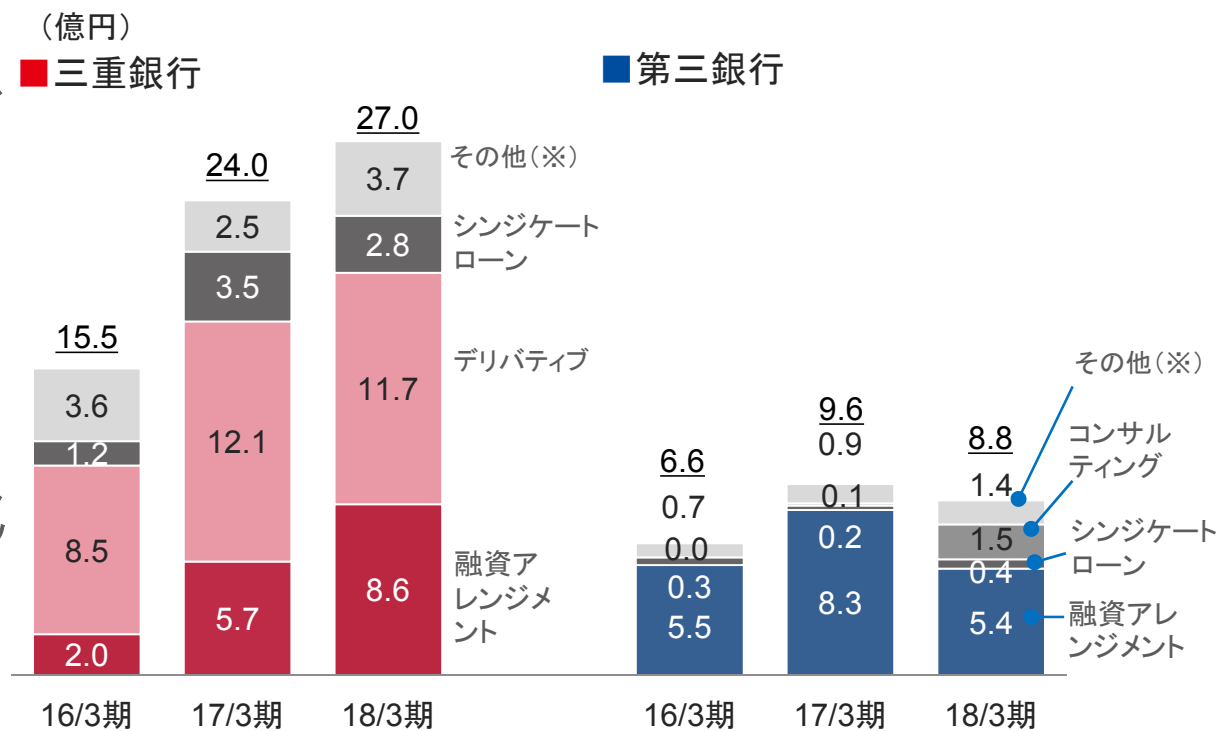
(億円)



※その他:M&A、ビジネスマッチング、証券仲介等

大幅増加基調

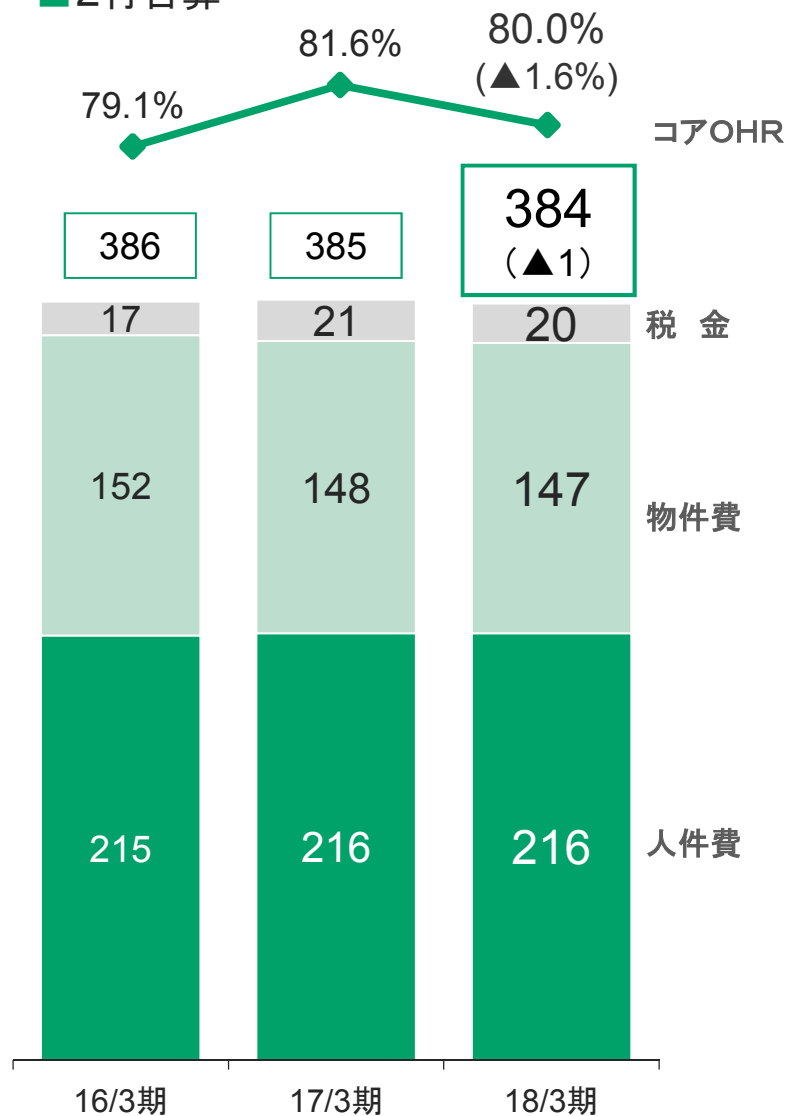
(2行合算)



経費

(億円)

■ 2行合算



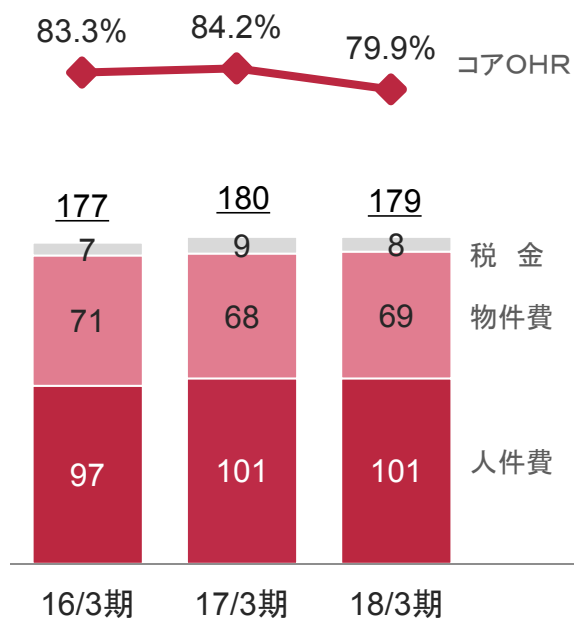
経費 1億円減

コアOHR 1.6%低下

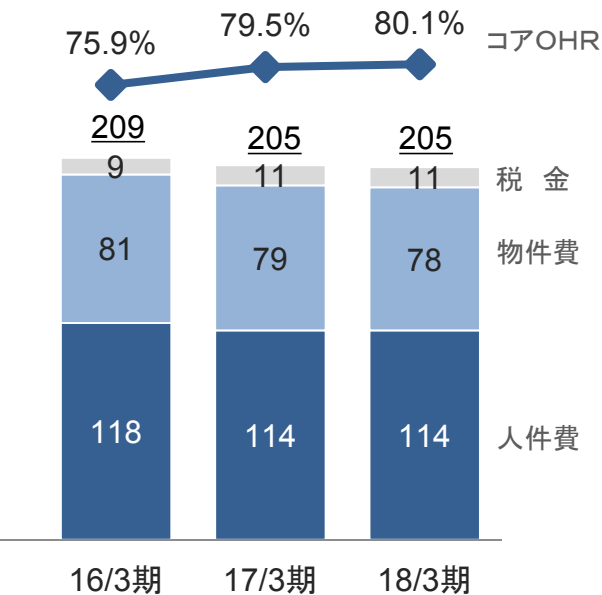
(2行合算)

(億円)

■ 三重銀行



■ 第三銀行

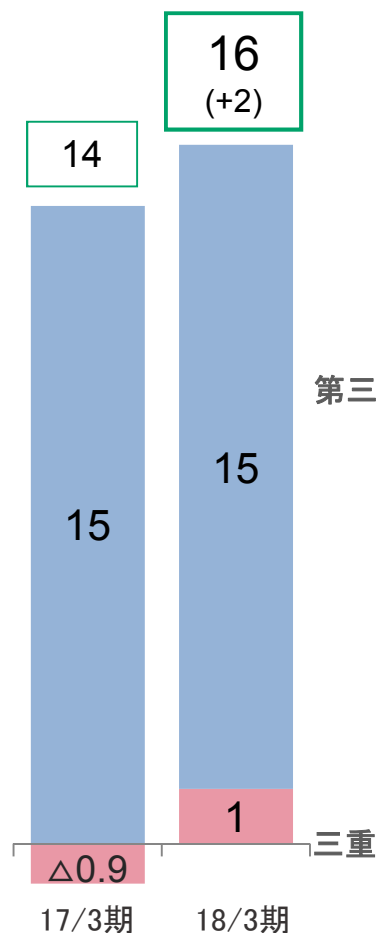


信用コスト・金融再生法開示債権

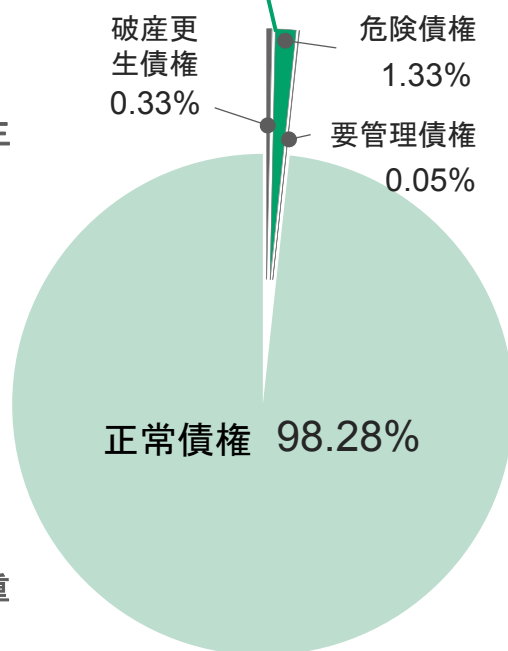
■ 信用コスト
(2行合算)

■ 金融再生法開示債権
(2行合算)

(億円)



開示債権比率1.71%



信用コスト 2億円増

開示債権比率 1.71%

地域銀行(地銀+第二地銀)平均1.8% 2017/9期

(2行合算)

(億円)

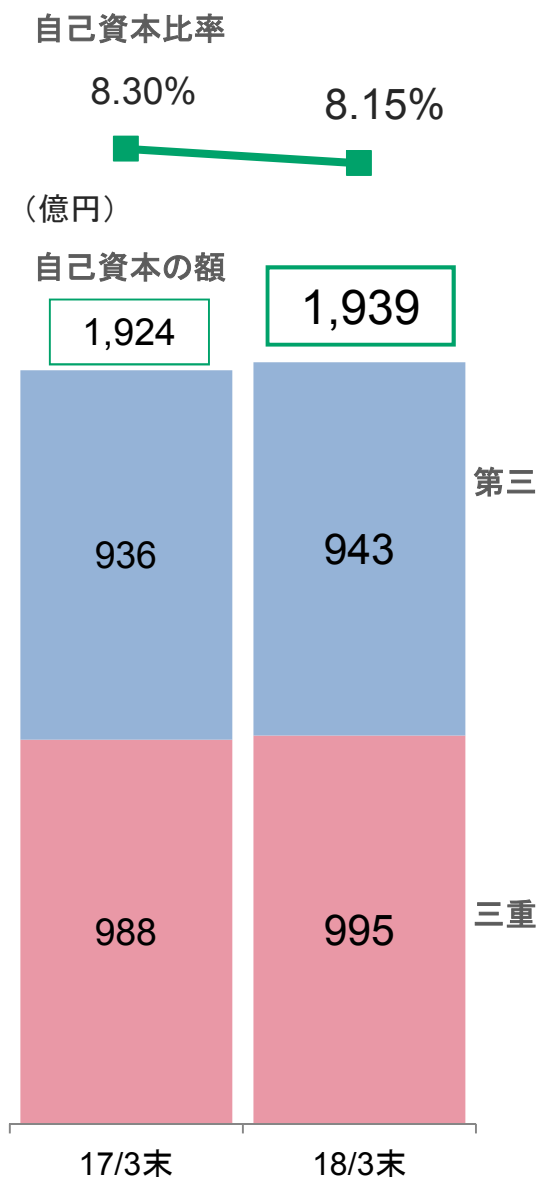
■ 2行合算

■ 三重銀行

■ 第三銀行

	17/3末	18/3末	前期末比	17/3末	18/3末	前期末比	17/3末	18/3末	前期末比
総与信 残高	26,866	26,972	106	14,139	14,015	△ 124	12,726	12,957	231
開示債 権合計	433	463	30	194	172	△ 22	238	291	52
開示債 権比率	1.61%	1.71%	0.10%	1.38%	1.23%	△0.15%	1.87%	2.25%	0.38%

自己資本比率(連結ベース)



自己資本比率
(連結ベース) **8.15%**

国内基準行に求められる4%を
大きくクリア
(2行合算)

(億円)	■ 2行合算			■ 三重銀行			■ 第三銀行		
	17/3末	18/3末	前期末比	17/3末	18/3末	前期末比	17/3末	18/3末	前期末比
自己資本の額	1,924	1,939	14	988	995	7	936	943	6
リスクアセット	23,187	23,789	601	12,124	12,389	264	11,063	11,400	336
自己資本比率	8.30%	8.15%	△0.15%	8.15%	8.03%	△0.12%	8.46%	8.27%	△0.19%

業績予想・配当政策

■三十三フィナンシャルグループ連結業績予想 (億円)

	2018/3期		合算	2019/3期
	三重 連結	第三 連結		
経常利益	53	54	108	116
親会社株主に帰属する 当期純利益(※)	38	41	80	592

経常利益 **116億円**

当期純利益(※) **592億円**

親会社株主に帰属する

※経営統合に伴う「負ののれん発生益」として520億円程度を特別利益に計上見込み

■配当政策

株式のみなさまに対する利益還元を最重要施策の一つとして位置づけ、内部留保の充実による自己資本の向上と長期安定的な経営基盤の拡充を図りつつ、安定的な配当を継続します。

2019/3期予想	年間	中間	期末
配当金(普通株式)	72.00円	36.00円	36.00円

■子銀行(単体)業績予想

■2行合算

	2018/3期	2019/3期	前期比
経常収益	572	572	+0
コア業務純益	97	107	+9
実質業務純益	98	107	+8
業務純益	96	108	+11
経常利益	101	115	+13
当期純利益	78	79	+0

■三重銀行

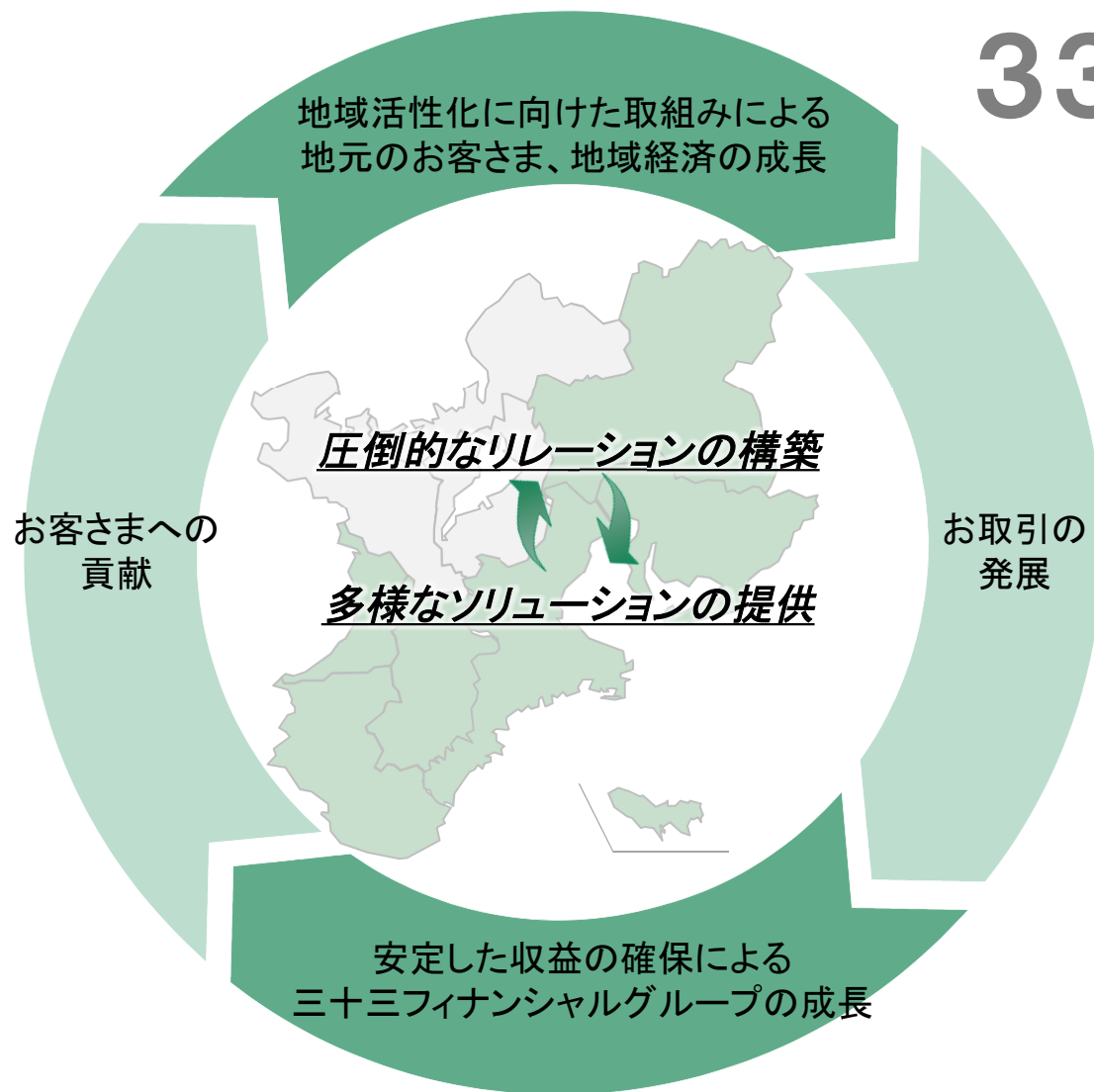
	2018/3期	2019/3期	前期比
	258	264	+5
	47	48	+1
	47	48	+0
	47	48	+0
	47	54	+6
	35	38	+2

■第三銀行 (億円)

	2018/3期	2019/3期	前期比
	313	308	▲ 5
	50	59	+8
	51	59	+7
	49	60	+10
	54	61	+6
	43	41	▲ 2

Ⅲ 第1次中期経営計画について





33FGビジネスモデル

リレーション & ソリューション

中期経営計画の概要

ビジョン

質の高い地域ナンバー1金融グループ

地域のお客さまと圧倒的なリレーションを構築し、お客さまの経営課題やニーズに対して多様なソリューションを提供することで地域に貢献する信頼度ナンバー1の金融グループを目指します。

第1次中期経営計画(2018年4月～2021年3月)

統合効果を早期実現・最大限発揮しつつ、強固な経営基盤を構築することで、質の高い地域金融グループを目指す期間

次期中期経営計画(2021年4月～2024年3月)

両行の強みを完全に融合させ、本格的な成果を実現し、更なる成長へ挑戦する期間

本中計のテーマ

統合効果の
早期実現・最大化



強固な経営基盤の構築



地域とともに成長し続ける

統合効果の早期実現・最大化
強固な経営基盤の構築

完全融合
本格的な成果実現
更なる挑戦

2018年4月～

2021年4月～

中期経営計画の基本方針および基本戦略

基本方針		基本戦略	
リレーションの構築	ソリューションの提供	法人のお客さま	個人のお客さま
		□ 事業性評価に基づく本業支援を通じた事業性貸出先数の増加 □ 地域経済活性化に向けたお客さまとの接点拡大	□ 対面・非対面を融合したお客さまとの接点拡大 □ 休日営業の拡充による利便性向上
効率化と最適化	強力な営業体制の確立	□ 営業人員の戦略的配置、店舗の効率化 □ 高いコンサルティング力を有する人材の育成	
	ローコストオペレーションの実現	□ ノウハウ共有による本部業務等の共通化 □ スケールメリットによるコスト削減	
強固な経営基盤の構築		□ 実効性の高いガバナンス態勢の構築 □ 適切な内部管理態勢等の構築 □ 新グループのプレゼンス強化	

基本戦略 ～リレーションの構築～

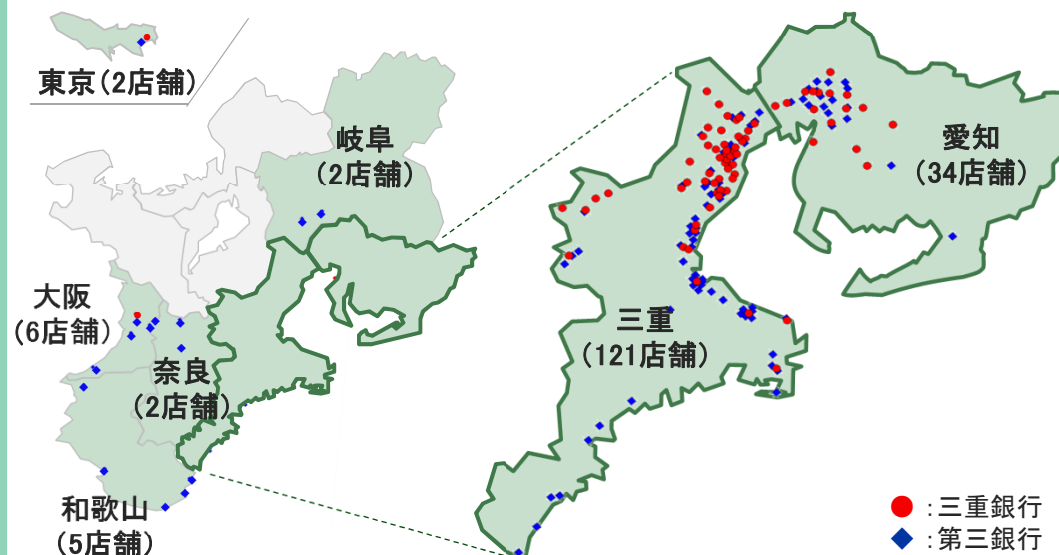
三重県、愛知県および近接広域地域を網羅する店舗網の形成により、お客さまとの接点拡大を図り、最初にお声がけいただける信頼関係づくりに尽力いたします。

店舗の利便性向上

□ 三重県北部を中心とするきめ細やかな店舗網と、三重県中南部を中心とし広域に跨る店舗網を融合することで、より身近で便利にご利用いただけます。

店舗数	三重						愛知			他 都府県	合計
		北勢	中勢	南勢	伊賀	東紀州	名古屋 市内	名古屋 市外			
三重銀行	57	43	6	3	5	—	16	8	8	2	75
第三銀行	64	22	21	11	4	6	18	16	2	15	97
合計	121	65	27	14	9	6	34	24	10	17	172

※2018年6月12日現在



お客さまとの接点拡大

法人のお客さま : 理解の深化、応対力の強化

□ お客さまの理解の深掘り

- ・ 両行共通のリレーションシート(事業性評価シート)の導入・改善を通じた、お客さまに対する理解の深化

□ 応対力の強化

- ・ 多様化するニーズにお応えする各種専門チームの創設による、お客さまへの応対力の強化

個人のお客さま : チャンネルの利便性向上

□ 対面チャネルの利便性向上

- ・ 休日営業チャネルの相互活用による機能強化
- ・ ローンプラザ・ほけんの窓口との連携による相談機会の拡大

□ 非対面チャネルの拡充

- ・ FinTech等の新たな技術を活用した、スマホ決済やモバイルバンキング等の取組み強化
- ・ ATMの相互開放によるATMネットワークの拡充

基本戦略 ～ソリューションの提供～

お客さま一人ひとりのライフステージにおける多種多様なニーズにお応えすべく、総合的な金融サービスをご提供します。

ソリューション力の強化に向けた取組み

ライフステージに合わせた多様な商品・サービスラインアップ

法人のお客さま

□ ノウハウを相互活用した対応力の強化

両行間の連携強化により、ノウハウを相互に最大限活用できる体制を整備

□ 本部フロント支援部門の機能強化

専門知識を有する人材の増員、育成により、ライフステージに応じた課題解決型提案力を強化

創業期

創業に向けた資金、
ノウハウの総合支援

- 創業資金融資
- 創業ノウハウ提供
- 創業計画策定支援
- 補助金、専門家活用支援

成長・安定期

ビジネスマッチングや
資金調達手法の最大活用

- 成長、事業拡大資金融資
- 販路拡大、海外進出支援
- 成長分野支援ファンド出資
- ストラクチャードファイナンス

再生・転換期

事業再生・承継ニーズへの
専門コンサルティングの提供

- M&A、事業承継支援
- 事業再生支援
- 経営改善計画策定支援
- 転廃業・事業整理支援

個人のお客さま

□ ライフイベントに応じたコンサルティング力の強化

高いコンサルティング力を有する人材の育成により、就職や結婚、退職などのライフイベントに応じた提案力を強化

□ 多様なチャネルを通じた商品・サービスの提供

両行の休日営業店舗やスマホアプリ、インターネットバンキングなどの多様なチャネルを通じた利便性の高い金融サービスの提供

独身層

利便性の高い
金融サービスの提供

- スマートフォン決済サービス、
アプリバンキング
- 少額投資商品（つみたてNISA
など）
- マイカーローン、フリーローン

ファミリー層

ライフイベントに応じた
商品・サービスの充実

- 住宅ローン、教育ローン
- 資産形成商品（積立型投資
信託、iDeCoなど）
- 保障型保険（収入保障、医療
など）、貯蓄型保険

退職・シニア層

豊かな生活を過ごすための
退職世代へのサービス提供

- 年金口座
- リバースモーゲージ、空家
活用ローン
- 退職金運用
- 資産承継サービス（遺言代用
信託など）

基本戦略 ～効率化と最適化／強固な経営基盤の構築～

強力な営業体制の確立とローコストオペレーションの実現による効率化・最適化を推進しつつ、新グループのプレゼンスを高め強固な経営基盤を構築します。

効率化と最適化

強力な営業体制の確立

- 営業人員の戦略的配置
- 最適な対面、非対面営業体制の構築
- 高いコンサルティング力を有する人材の育成



ローコストオペレーションの実現

- 本部機能集約や業務改善などオペレーション改革によるコスト削減
- 店舗軽量化によるローコスト運営の実現
- スケールメリットによるコスト削減

強固な経営基盤の構築

実効性の高いガバナンス態勢の構築

- 持株会社による管理・監督機能の発揮
- グループ間の緊密な連携によるグループ経営管理態勢の構築

適切な内部管理態勢等の構築

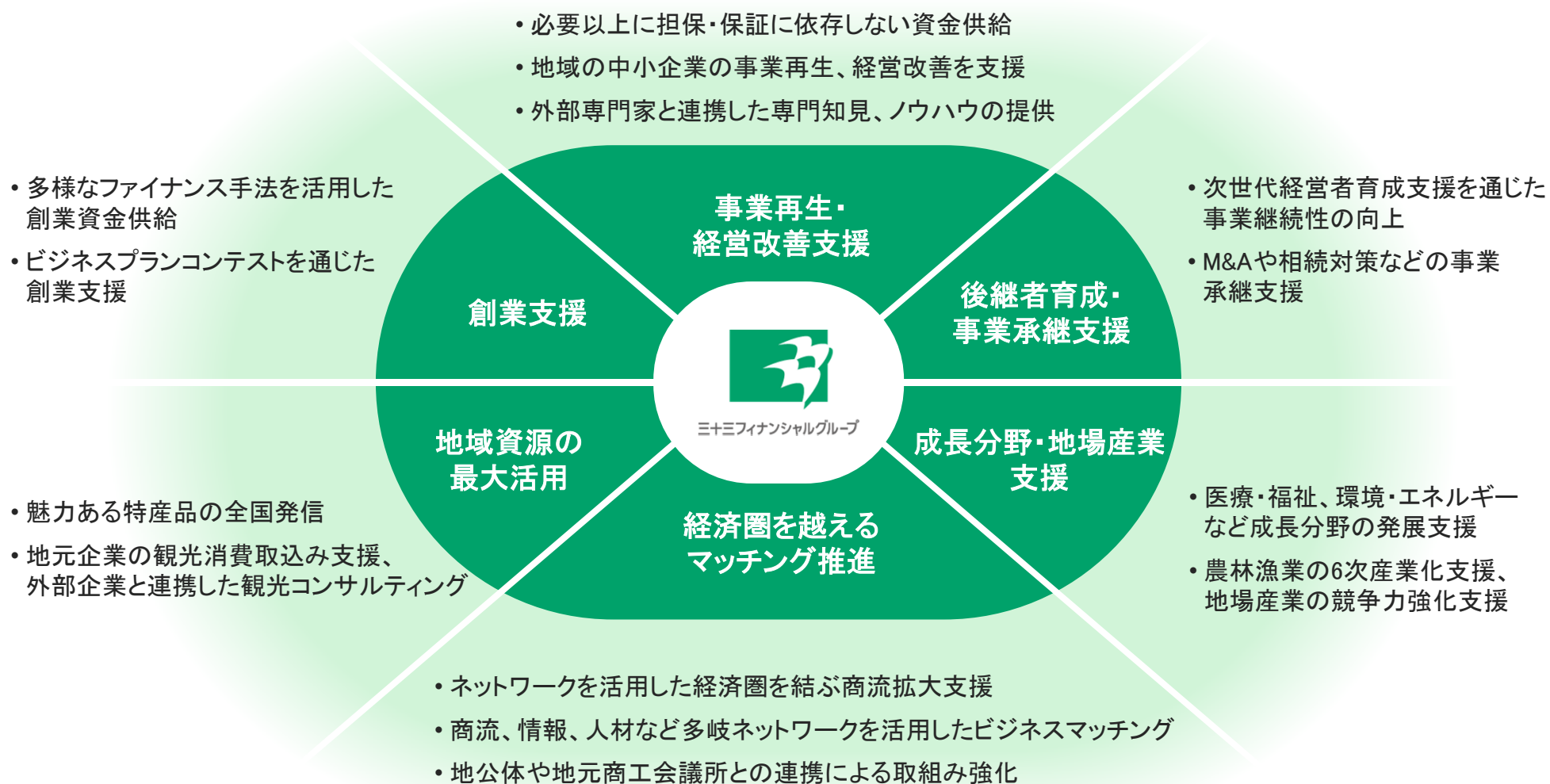
- グループ横断のリスク管理態勢の構築
- 改善方法の積極的な提言やフォローアップの実施を通じた内部監査機能の強化

新グループのプレゼンス強化

- 一体感のある企業文化の醸成と、両行の強み共有の促進
- 人材交流、外部への人材派遣、女性が働きやすい制度など多様なキャリアパスの提供
- 働き方改革による組織の生産性向上
- ブランドの確立、およびブランド力の浸透・向上に向けた取組み
- 地域に対するCSRの取組強化

地域経済活性化への取組み

地域経済に密着した金融機能の発揮を通じて、活力あふれる未来の創造に貢献いたします。



グループ計数計画

地域経済活性化に向けた取組み

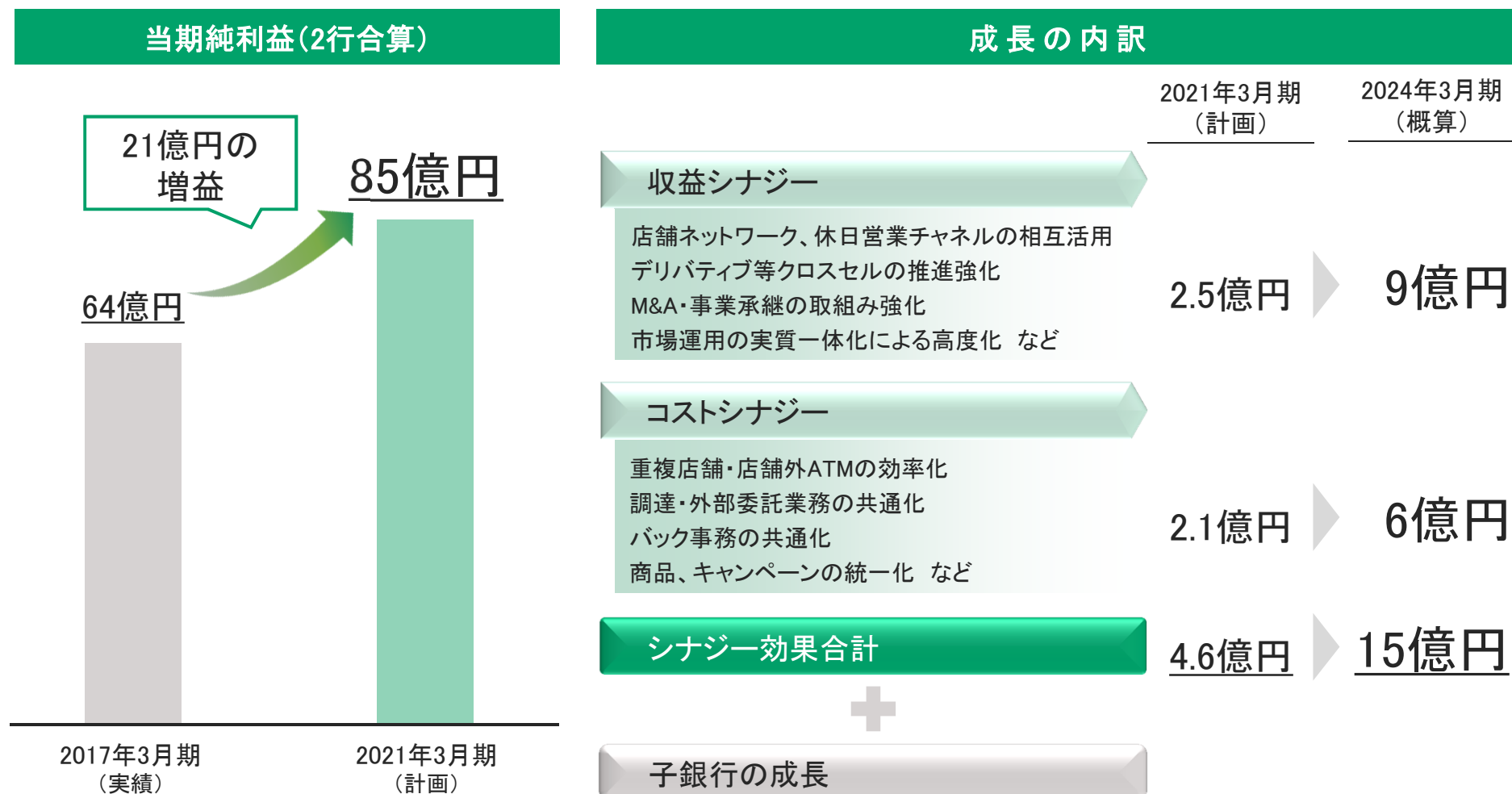
	2017年3月期（実績）			2018年4月～2021年3月 （3年累計）
	三重	第三		
地元*事業性貸出先数 （* 三重県＋愛知県）	6,401先	12,559先	（期末先数） 18,960 先	（2018年3月期比） + 1,100 先
創業ファイナンス支援先数	88先	71先	（年間） 159 先	1,120 先
ビジネスマッチング対応件数	636件	410件	（年間） 1,046 件	4,200 件
事業承継支援件数	140件	39件	（年間） 179 件	1,200 件

財務目標

	2017年3月期（実績）			2021年3月期 （2行合算）
	三重	第三	（単純合算）	
当期純利益	32億円	32億円	64億円	85 億円

シナジー効果について

新たなビジネスモデルの実現により統合効果を最大限に発揮し、3年目に4.6億円のシナジーを実現することで、2021年3月期の当期純利益は85億円を目標とします。



* シナジー部分は税効果を除く